

Book Review

口腔習癖 実践編 アイコンで見える化する口腔機能の問題点

河井 聡 著



Reviewer

須貝昭弘 Akihiro Sugai
(神奈川県・須貝歯科医院)

A4 判変、220 頁
カラー
定価 9,900 円
医歯薬出版刊



河井先生の『口腔習癖 実践編』が出版された。前作の『口腔習癖 見逃してはいけない小児期のサイン』の内容を実際に臨床でどのように取り入れていくかを事細かく解説した内容で、きっと前作を購入された先生方が待ちに待った待望の一冊ではないだろうか。

河井先生は私の医院に卒直後から勤務し、ちょうど咬合育成に力を入れ始めていた頃であったので、独立したあともその興味が続いていったようである。子どもたちの扱いに頭を抱える若い先生たちには「子どもの治療は実際に子どもを育ててみないとわからないよ」と言っているが、奥様も歯科医師である河井先生ご夫妻の子育ての時期にこの分野に興味をもって取り組んだことで、内容がよりいっそう濃くなっていったのではないだろうか。

以前、私の医院では口腔機能の重要性については理解はしていたものの、その対策としての口腔習癖へのアプローチはほとんど行っていなかった。何度もトライをしてみたものの、子どもたちの口の中にその成果をなかなか見ることができず、口腔習癖への対応

は矯正歯科専門医の下で行うべきであるという考えになっていた。河井先生が独立されてから、口腔習癖に興味をもちその対策を積極的に行っていることは本人からも聞いていたが、「あんまり首を突っ込まないほうがよいのではないか」と思って見ていた。しかし子どもたちの咬合育成に取り組み、形態を整えることができるようになってくると、そのなかで上手くいかないケースのほとんどの原因が口腔習癖にあることがわかってくる。あらためて子どもたちに正しい口腔機能を獲得させることの重要性を痛感するようになり、再び口腔習癖について学ばなければならないと思うようになった。

そんなとき、河井先生が口腔習癖への対応についてはっきりとした道筋を立ててくれるようになっていて、講演会や論文などを通して多くの情報を与えてくれていた。それらの情報がこのように書籍化され多くの先生方に知られることは、歯科界にとってとても幸運なことである。

私は勤務した先生には、目の前の患者をどのように治療し、どのような結

果になったのか、そしてその後どうなっていたのかを観察し、それをしっかり記録に残すように指導してきた。河井先生の臨床にはそのことがしっかりと反映されており、そのことで誰が読んでもよくわかる内容となり、ウソや誤魔化しのないしっかりと結果が示された内容になっている。

以前に比べ小児の口腔機能不全に関する情報は多くなってきたが、そもそも成人の歯列咬合の異常の原因が、子どもの頃からの口腔習癖であることに気がつかない方がいるかもしれない。そしてそのことに興味をもち始めたとしても、何から手をつければよいのか、なぜこのような口腔内になっているのか、どんな訓練を行えばよいのか、など暗中模索の先生も多いのではないだろうか。そんなときこの本を手にとれば、何が悪くてこうなっているのか、どんな訓練や処置を行えばよいのか、うまくいったらこうなる、うまくいかなければこうなる、ということがはっきりわかるはずである。